

新座志木中央総合病院

初期臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの名称

新座志木中央総合病院 初期臨床研修プログラム

2. 研修プログラムの目的と特色

研修理念である『医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応出来るよう、基本的な診療能力(態度・技能・知識)を身に付けること』を目的としている。

本プログラムの特色は、地域の中核的病院として地域住民・医療機関及び社会から強く要望されているプライマリケアの基本的能力充実のためのプログラムを策定しております。

内科系は、消化器・循環器・代謝内分泌・膠原病・アレルギー・血液・腎臓高血圧・呼吸器・神経等を含む広い領域での指導体制となっています。また、外科系(消化器・一般・呼吸器・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・眼科・皮膚科・婦人科等)も同様ですので、内科系・外科系を通じて多くの症例を経験出来ます。更に、麻酔科研修でも救急医療の基礎を成す呼吸循環管理や臨床薬理の充実した指導を受けられます。また、小児科・産婦人科・精神科等も個々の研修医の希望に応じて柔軟に対応致します。

3. プログラムの目標

具体的な目標は、医療人として必要な基本姿勢・態度として、(1) 患者-医師関係、(2) チーム医療、(3) 問題対応能力、(4) 安全管理、(5) 医療面接、(6) 症例提示、(7) 診療計画、(8) 医療の社会性を身に付く様に指導・教育を行う。

その上で経験目標として、(1) 基本的な身体診察法、(2) 基本的な臨床検査・基本的手技、その他、(3) 頻度の高い症状、(4) 緊急を要する症状・病態、(5) 経験が求められる疾患・病態、(6) 基本的治療法、(7) 医療記録について研修できる様指導するだけでなく、多くの医療分野の医療関係者による総合的な教育・指導を行うことを目標とする。

また、厚生労働省の定めた経験目標(症状・病態・疾患)について、自ら経験することを目標とする。自ら経験出来ない場合は、担当以外の入院患者・救急患者で回診、カンファレンス等を通して学習する。研修委員会、指導医は到達目標が達成できるよう、選択期間等でフォローアップしていく。

4. プログラムの到達目標

- (1) 原因・病態生理・病理を説明できる
- (2) 問診・身体所見から適切な疾患を疑うことができる
- (3) 診断のための各種検査をオーダーできる
- (4) 各種検査結果から疾患を診断できる
- (5) 診断された疾患の治療を行うことができる

5. 研修プログラム責任者の氏名

責任者

病院長 林 淳慈

プログラム責任者

副院長 松浦 直孝

6. プログラム概要

※研修カリキュラム例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	内科						救急	麻酔	外科系			
	新座志木中央総合病院											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年次	小児	産科	精神	地域	選択							
	当院若しくはプログラム研修病院群											

※内科系 6ヶ月以上

※外科系 3ヶ月以上

※救急科 3ヶ月以上

※麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、地域医療 各1ヶ月以上

※選択科目

希望する診療科

7. 研修協力病院・施設

1. 管理型臨床研修病院

新座志木中央総合病院（402床）

所在地：埼玉県新座市東北1-7-2

研修分野：内科・循環器内科・外科系・麻酔科・救急科・在宅

2. 協力型臨床研修病院

成増厚生病院（482床）

所在地：東京都板橋区三園1-19-1

研修分野：精神科

研修期間：4週間

菅野病院（280床）

所在地：埼玉県和光市本町28-1

研修分野：精神科

研修期間：4週間

戸田中央産院（62床）

所在地：埼玉県戸田市上戸田2-32-1

研修分野：産婦人科

研修期間：4週間

戸田中央総合病院（517床）

所在地：埼玉県戸田市本町1-19-3

研修分野：小児科

研修期間：4週間

3. 協力研修施設 1科目4週間

佐々総合病院（183床）

所在地：東京都西東京市田無町4-24-15

研修分野：産婦人科

まちだ訪問クリニック

所在地：埼玉県朝霞市本町1-34-1

研修分野：地域医療・在宅

8. 研修医修医の指導体制

1. 新座志木中央総合病院研修管理委員会を設置する。
 - 1-1 委員会の構成員
 - ・ 基幹型臨床研修病院の管理者（院長）
 - ・ 基幹型臨床研修病院の副院長
 - ・ 研修プログラムのプログラム責任者
 - ・ 協力型臨床研修病院の研修実施責任者
 - ・ 臨床研修協力施設の研修実施責任者
 - ・ 基幹型臨床研修病院の事務部門責任者
 - 1-2 委員会は次に掲げる事項を行う
 - ・ 研修プログラムの全体的な管理
 - ・ 研修医の全体的管理
 - ・ 研修医の研修状況の評価
 - ・ 採用時における研修希望者の評価
 - ・ 研修後及び中断後の進路についての相談等の支援を行う
2. プログラム責任者は研修プログラムの作成、管理及び個々の研修医の指導・管理を担当する。
3. 指導医は臨床経験7年以上で、プライマリケアを中心とした指導を行える十分な能力を有する者とする。
4. 研修開始に当たり『新座志木中央総合病院 初期臨床研修プログラム』を各研修医に配布する。
5. 各研修医は、このプログラムに則り自己評価を行う。
6. 指導医は、担当する診療科での研修期間中、研修目標の到達状況を適宜把握する。
7. プログラム責任者は研修医の目標到達状況を把握し、研修管理委員会に研修目標の達成状況を報告する。
8. 管理型臨床研修病院の病院長は、研修管理委員会が行う評価の結果、臨床研修を終了したと認めるときは「臨床研修修了証」を交付する。
9. 臨床研修を終了したと認めないときは、その理由を文書で交付する。

9. 研修医の募集要項

- (1) 応募資格 医師免許取得見込みの者
- (2) 募集人員 3名
- (3) 応募条件 厚生労働省マッチングシステムに参加していること
- (4) 募集期間 当院ホームページ参照
- (5) 選考方法 面接、小論文
- (6) 申込方法 臨床研修医申込書、卒業見込証明書、成績証明書

10. 研修医の処遇

ア 身分 常勤職員とする

イ 給与

- ① 1年次 月額360,000円 賞与 0円
- ② 2年次 月額400,000円 賞与 0円
- ③ その他については、新座志木中央総合病院給与規程による

ウ 勤務時間 09:00～18:00 (休憩 60分)

エ 休暇

- ① 日・祝・休日・夏休み(7・8・9月の間で)…7日以内
- ② 有給休暇(1年次10日、2年次11日)
- ③ 年末年始休暇、慶弔休暇等

オ 時間外勤務 指導医の判断により勤務することあり。時間外手当は規程により支給

カ 当直 月平均 4回

キ 宿舎 単身者用4室

ク 病院内の個室 なし

ケ 社会保険・労働保険

公的医療保険 : TMG健康保険組合

公的年金保険 : 厚生年金保険加入

労働者災害補償保険の適用 : 有

雇用保険 : 加入

コ 健康管理 年2回健康診断実施

サ 医師賠償責任保険 病院では医療従事者の行為については加入済。個人加入は任意とする

シ 外部の研修活動 学会・研究会等への参加 : 可 費用支給 : 有

ス アルバイトに関する事項

研修期間中は、業務に支障を期する可能性があるためアルバイトは禁止とする

内科 臨床研修プログラム

『一般内科』

1. 研修プログラムの目標と特徴

基本目標を救急・プライマリケアの実践できる医師の養成とし、1年次に6ヶ月に渡り内科全般を研修する。入院では常時10名～15名の患者様を受け持ち、外来では指導医のもと患者対応し、一般的な内科診療の基本を学び症状に合わせた治療を学習する。心肺蘇生術や採血注射点滴ラインの確保等の技術を修得する。

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 指導責任者 松浦 直孝
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

1. 内科診察の基本事項(問診、病歴、病歴記載、患者への接し方)の研修
2. 臨床に必要な臨床検査、生理検査、処置法、その他の修得する
3. 内科的診察の基本を研修し、的確な診断と治療が実践できる様に指導する

4. 一般目標

1. 内科一般に必要な臨床能力の取得に加え、特に糖尿病を始めとした生活習慣病を扱う医師に必要な基礎能力(技能)を修得する

5. 行動目標

1. 経験すべき診察法・検査・手技
 - ・全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる
 - ・頭頸部の診察(眼瞼・結膜、眼底、外耳道、鼻腔、口腔、咽頭の観察、甲状腺の触診を含む)ができ、記載できる
 - ・胸部の診察(乳房の診察を含む)ができ、記載できる
 - ・腹部の診察(直腸診を含む)ができ、記載できる
 - ・血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
 - ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素等)
2. 経験すべき症状・病態・疾患
 - ・全身倦怠感を診察し治療に参加できる
 - ・食欲不振を診察し治療に参加できる
 - ・体重減少、体重増加を診察し治療に参加できる
 - ・発熱を診察し治療に参加できる
 - ・動悸を診察し治療に参加できる
 - ・便通異常(下痢、便秘)を診察し治療に参加できる
 - ・四肢のしびれを診察し治療に参加できる
 - ・排尿障害(尿失禁・排尿困難)を診察し治療に参加できる
 - ・尿量異常を診察し治療に参加できる
 - ・高血圧症(本態性、二次性高血圧症)を診察し、治療に参加できる

- ・疾患による腎障害(糖尿病性腎症)を診察し、治療に参加できる
- ・視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)を診察し、治療に参加できる
- ・甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)を診察し、治療に参加できる
- ・副腎不全を診察し、治療に参加できる
- ・糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)を診察し、治療に参加できる
- ・高脂血症を診察し、治療に参加できる
- ・蛋白および核酸代謝異常(高尿酸血症)を診察し、治療に参加できる
- ・糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化を診察し、治療に参加できる

3. 全科共通項目

- ・診療録(退院サマリーを含む)をPOSに従って記載し管理できる
- ・処方箋、指示箋を作成し管理できる
- ・診断書、死体検案書、紹介状、その他の証明書を作成し管理できる
- ・保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる

6. 評価方法(全科共通項目)

1. 自己評価

カンファレンス・学術集会の参加記録並びに研修症例記録表に記録する
研修医評価表に自己評価を行う

2. 指導医による評価

研修記録より研修医評価をする
研修レポートより研修医評価をする
他者評価表を用いて研修医評価する

3. 看護師による評価

他者評価表を用いて研修医評価する

4. コメディカルによる評価

他者評価表を用いて研修医評価する

5. 研修医による評価

他者評価表を用いて指導医評価する

1. 研修の基本

消化器病学全般のみならず、救急及びプライマリケアが実践できる医師の養成を目標とする

また、消化器癌の治療とターミナルケア、慢性疾患治療とケアに関しては、患者の意思を尊重した治療を学習する

2. 一般目標

- ・消化器疾患における問診、視診、触診を含めた腹部理学的所見の基本を修得する
- ・画像診断のみならず、各種疾患に対応する緊急処置の知識を修得する
- ・急性腹症に対する緊急検査、処置さらに画像診断を修得する
- ・消化器癌の診断(レントゲン、内視鏡)と治療方針を修得する

3. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる
- ・腹部の診察(直腸診を含む)ができ、記載できる
- ・血算、白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)
- ・内視鏡検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・採血法(静脈血、動脈血)を実施できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・腹痛を診察し治療に参加できる
- ・急性腹症について初期治療に参加できる
- ・急性消化管出血について初期治療に参加できる
- ・食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)を診察し、治療に参加できる
- ・小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)を診察し、治療に参加できる
- ・胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)を診察し、治療に参加できる
- ・肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)を診察し、治療に参加できる
- ・肝臓疾患(急性・慢性膵炎)を診察し、治療に参加できる

『循環器内科』

1. 研修の基本

循環器疾患の治療には、解剖、生理及び病態の理解が必須であり、更にこれらに加え、理論的とも根拠のある治療が出来る様研修を行う

2. 一般目標

- ・循環器疾患の病歴、身体所見の取り方を習得する
- ・循環器疾患(特に虚血性心疾患、心不全)の診断、治療を理解する
循環器の検査及び治療(冠動脈形成術も含めて)に指導医と同時に参加することで理解しやすい

3. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・胸部の診察ができ、記載できる
- ・一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む)の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・血算・白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・心電図(12誘導)負荷心電図を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)
- ・胸部単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・心臓核医学検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる
- ・採血法(静脈血、動脈血)を実施できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・浮腫を診察し治療に参加できる
- ・胸痛を診察し治療に参加できる
- ・動悸を診察し治療に参加できる
- ・呼吸困難を診察し治療に参加できる
- ・急性心不全について初期治療に参加できる
- ・急性冠症候群について初期治療に参加できる
- ・心不全を診察し、治療に参加できる
- ・狭心症、心筋梗塞を診察し、治療に参加できる
- ・心筋症を診察し、治療に参加できる
- ・不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)を診察し、治療に参加できる
- ・弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)を診察し、治療に参加できる
- ・高血圧症(本態性、二次性高血圧症)を診察し、治療に参加できる

外科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

初期臨床研修において、1年次に外科的プライマリケアの基本的な能力を習得することを目的とした3ヶ月間の臨床計画である

2. 指導責任者と研修施設

専門分野別指導責任者 : 指導責任者 斎藤 準

研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

外科病棟及び外科外来勤務 3カ月

研修内容と到達目標

厚生労働省の初期臨床研修到達目標の中で、外科系の臨床研修目標を達成する

4. 一般目標

研修医は指導医の元、外来及び入院診療に参加し、外科的な病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリケアの基本的な診療能力（知識、技術、態度）を習得する

5. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・全身の観察(バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む)ができ、記載できる
- ・腹部の診察(直腸診を含む)・胸部の診察ができ、記載できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・食道、胃、十二指腸疾患(食道癌、食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)を診察し、治療に参加できる
- ・小腸、大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)を診察し、治療に参加できる
- ・胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎、胆道癌)を診察し、治療に参加できる
- ・肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)を診察し、治療に参加できる
- ・膵臓疾患(急性・慢性膵炎、膵癌)を診察し、治療に参加できる
- ・横隔膜、腹壁、腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)を診察し、治療に参加できる
- ・肺癌を診察し、治療に参加できる
- ・乳癌を診察し、治療に参加できる

救急科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目的と特徴

将来の専門分野にかかわらず、臨床の現場において必要不可欠なプライマリケア、救急医療および集中治療の基本的な知識、技能、さらに医療人として必要な基本的姿勢、態度を習得し、後期研修に繋がる能力を養うことを目的とする

また、内科・外科の専門医療と平行しながら研修を行っていき、週1回程度の当直医との共同診療により、休日夜間救急の実践を行う

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 萩原 章嘉
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

救急外来勤務 3カ月

4. 一般目標

初期救急医療および集中治療における基本的身体診察法、基本的臨床検査、基本的手技、基本的治療法および医療記録の基本的知識、技能を学ぶ。さらに、緊急を要する症状、病態の経験および救急医療の現場を経験する。

5. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ・動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・気道確保を実施できる
- ・人工呼吸を実施できる（バックマスクによる徒手換気を含む）
- ・心マッサージを実施できる
- ・気管挿管を実施できる
- ・除細動を実施できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・頭痛を診察し治療に参加できる
- ・失神を診察し治療に参加できる
- ・けいれん発作を診察し治療に参加できる
- ・胸痛を診察し治療に参加できる
- ・動悸を診察し治療に参加できる
- ・呼吸困難を診察し治療に参加できる
- ・心配停止について初期治療に参加できる
- ・ショックについて初期治療に参加できる
- ・意識障害について初期治療に参加できる
- ・脳血管障害について初期治療に参加できる
- ・急性呼吸不全について初期治療に参加できる
- ・急性心不全について初期治療に参加できる

- ・急性冠症候群について初期治療に参加できる
- ・急性中毒について初期治療に参加できる
- ・熱傷について初期治療に参加できる
- ・心不全を診察し、治療に参加できる
- ・呼吸不全を診察し、治療に参加できる
- ・中毒（アルコール、薬物）を診察し、治療に参加できる
- ・アナフィラキシーショックを診察し、治療に参加できる
- ・環境要因による疾患（熱中症、寒冷による障害）を診察し、治療に参加できる

麻酔科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

気道の確保、用手人工呼吸、静脈路確保などの基本的な救急処置の技術の習得を目標とする。手術症例を通じて、全身麻酔、脊椎麻酔の基礎的理解と呼吸循環モニターと管理の基本を理解する。

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 水本 靖
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

手術室 1カ月（術前麻酔計画、術中麻酔管理、術後回診等含む）

4. 一般目標

手術症例を通して、術前・術中・術後管理について基礎知識を習得する
手術時には、麻酔手技と共に、呼吸循環モニターの把握と管理の基本を理解する
脊髄も膜下麻酔10例以上、全身麻酔50例以上を経験させ、救急処置における呼吸循環管理の基礎的な技術と知識を麻酔管理を通じて習得させる。

5. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ・一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果が解釈できる
- ・血算、白血球分画の適応が判断でき、結果を解釈できる
- ・心電図（12誘導）負荷心電図を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる、簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- ・肺機能検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・スパイロメトリー
- ・髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・気道確保を実施できる
- ・人工呼吸を実施できる（バックマスクによる徒手換気を含む）
- ・注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる
- ・採血法（静脈血、動脈血）を実施できる
- ・穿刺法（腰椎）を実施できる
- ・胃管の挿入と管理ができる
- ・局所麻酔法を実施できる
- ・気管挿管を実施できる

泌尿器科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

初期泌尿器科研修は2年次の選択コースとなっており、1ヶ月の臨床研修を行うものとする。救急・プライマリケアの実践できる医師の養成が当院の臨床研修の基本目標であり、そのために最低限の泌尿器科的知識・処置・手術の研修を通して習得する。

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 細田 悟
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

泌尿器科病棟及び泌尿器科外来勤務 1カ月
各症例の診断から治療までのトータルな診療にあたる

4. 一般目標

外来診察、手術、検査、病院業務を通じて泌尿器科的の基本的知識や手技を修得するとともに、泌尿器科的症候を有する患者に対して、検査法の選択、診断、初期の治療ができる
日常診療で頻繁に遭遇する排尿障害、尿路感染、尿路結石及び前立腺癌、膀胱癌などを中心に検査企画を立案し治療戦略を立てる基礎知識を習得する

5. 行動目標

経験すべき診察法、検査、手技

- ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ・泌尿、生殖器の診察（産婦人科的診察を含む）ができ、記載できる
- ・一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）ができ、記載でき
- ・血算、白血球分画検査ができ、記載できる
- ・血液型判定、交差適合試験ができ、記載できる
- ・心電図（12誘導）負荷心電図ができ、記載できる
- ・動脈血ガス分析検査ができ、記載できる
- ・血液生化学的検査、簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）ができ、記載できる
- ・血液免疫学血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）ができ、記載できる
- ・細菌学的検査、薬剤感受性検査、検体の採取（痰・尿・血液など）・簡単な細菌学的検査（グラム彩色など）ができ、記載できる
- ・肺機能検査、スパイロメトリーができ、記載できる
- ・細胞診、病理組織検査ができ、記載できる
- ・超音波検査ができ、記載できる
- ・単純X線検査ができ、記載できる
- ・造影X線検査ができ、記載できる
- ・X線CT検査ができ、記載できる
- ・MRI検査ができ、記載できる
- ・核医学検査ができ、記載できる
- ・注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）を実施できる

- ・採血法（静脈血、動脈血）を実施できる
- ・導尿法を実施できる
- ・創部消毒とガーゼ交換を実施できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・浮腫を診察し、治療に参加できる
- ・発熱を診察し、治療に参加できる
- ・腰痛を診察し、治療に参加できる
- ・血尿を診察し、治療に参加できる
- ・排尿障害（尿失禁・排尿困難）を診察し、治療に参加できる
- ・腎不全（急性、慢性腎不全、透析）を診察し、治療に参加できる
- ・泌尿器的腎・尿路疾患（尿路結石・尿路感染症）を診察し、治療に参加できる
- ・男性生殖器疾患（前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍）を診察し、治療に参加できる
- ・老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）を診察し、治療に参加できる

整形外科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

救急を標榜しており、外傷一般、救急処置等を広く学ぶ。交通事故、スポーツなどによる骨折・脱臼が多い。人工関節リウマチセンターがあり、人工関節、関節疾患（股関節・膝関節）等、脊椎疾患等に加えスポーツ外傷・障害等の手術も行っている。

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 林 淳慈
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

整形外科病棟及び整形外科外来勤務 1 カ月
主治医チームのもと、治療、術前管理、手術、術後管理を行う

4. 一般目標

2 年次の中で研修する。目標は整形外科的救急患者の適切な診断と治療及び画像の読影で、必要最低限の知識を身につける。
救急疾患の実例として、骨折、関節の脱臼の及び靭帯損傷などの外傷の初期治療、開放骨折、急性脊椎脊髄損傷などの救急疾患への対応についての基本的な診断・治療技術の理解を深める
運動器慢性疾患（変形性関節症、腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸髄圧迫症、骨粗鬆症等）の重要性と特殊性について理解し、疾患や病態、診断及び治療についての治療体系の基本を修得する
整形外科専門医を目指す研修では前述の目標に加え、診断をつけた上で手術、リハビリとすすめてゆく能力をつけることを目標とする

5. 行動目標

経験すべき診察法、検査、手技

- ・骨、関節、筋肉系の診察ができ、記載できる
- ・単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・MRI検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・神経学的検査（脳波、筋電図など）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・包帯法を実施できる
- ・穿刺法（腰椎）を実施できる
- ・創部消毒とガーゼ交換を実施できる
- ・皮膚縫合法を実施できる

経験すべき症状、病態、疾患

- ・腰痛を診察し治療に参加できる
- ・関節痛を診察し治療に参加できる
- ・歩行障害を診察し治療に参加できる

- 四肢のしびれを診察し治療に参加できる
- 外傷について初期治療に参加できる
- 骨折を診察し、治療に参加できる
- 関節、靭帯の損傷及び障害を診察し、治療に参加できる
- 脊柱障害（腰椎椎間板ヘルニア）を診察し、治療に参加できる
- 慢性関節リウマチを診察し、治療に参加できる

脳神経外科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

救急医療、Primary Careを学んでいく上で、頭部外傷・脳血管障害など脳神経疾患に対する診断能力を身につける事は極めて重要であると思われる

頭部外傷・脳血管障害などを中心とした脳神経疾患に対する正しい神経学的所見のとり方、CT・MRI等の画像診断の基本的な読影にも理解を深めてもらう

また、脳血管撮影（含脳血管内治療）ならびに穿頭術・開頭術に参加する

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 斎藤 文男
2. 研修施設 : 新座志木中央総合病院

3. 研修の基本

脳神経外科病棟及び脳神経外科外来勤務 1カ月

4. 一般目標

第一線の医療において、脳神経外科疾患の適切な処置ができるようになるために一般的な脳神経外科の疾患を理解し、基本的な救急処置、検査ができるようになる。

頭部外傷、脳血管障害の診断とプライマリケアの修得、基本的画像診断（CT、MRI、Angiography等）の修得、基本的手術手技の修得

5. 行動目標

経験すべき診察法、検査、手技

- ・神経学的診察ができ、記載できる
- ・造影X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・MRI検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・神経生理学的検査（脳波、筋電図など）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・気道確保を実施できる（バックマスクによる徒手換気を含む）
- ・髄液検査（腰椎穿刺検査、脳室ドレナージ）が実施でき、結果の解釈ができる

経験すべき症状、病態、疾患

- ・頭痛を診察し治療に参加できる
- ・めまいを診察し治療に参加できる
- ・失神を診察し治療に参加できる
- ・けいれん発作を診察し治療に参加できる
- ・視力障害、視野狭窄を診察し治療に参加できる
- ・意識障害について初期治療に参加できる
- ・脳血管障害について初期治療に参加できる
- ・外傷について初期治療に参加できる
- ・脳、脊髄血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）を診察し、治療に参加できる
- ・脳腫瘍の患者を診察し、治療に参加できる

- ・脳、脊髄外傷（頭部外傷、急性硬膜外、硬膜下血腫）を診察し、治療に参加できる

精神科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

精神科医として基礎的な技術訓練をし、基本的な技術訓練を行い、臨床医としての能力を養成する
精神疾患の診断及び治療の基本的な考え方についてプライマリケアを中心とした研修を受ける

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 福良 洋一
2. 研修施設 : 菅野病院

3. 研修の基本

研修施設での研修 1 カ月

4. 一般目標

コメディカルの協力のもと、新規患者の予診を行い、患者の様々な症状を精神医学的に把握することを目標とする

指導医と共に、外来、病棟の診察にあたり、1～2症例の診察に直接関与する。これらを通して精神科薬物療法、精神療法の基本的考え方の修得を図る

産婦人科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

2年次に必須科として1ヶ月、産婦人科全般を研修する

指導医の元に、大学で習得した産婦人科の知識と技術を実際の臨床の場で発揮できるように、産婦人科の患者の基本的な診察の仕方を、病棟・分娩室及び外来で研修する

妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識とともに、育児に必要な母性とその育成を学ぶ、同時に問題に初めて遭遇した場合の対処の仕方、及び救急患者への対処の仕方を研修する

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 佐野 養
2. 研修施設 : 戸田中央産院

1. 専門分野別指導責任者 : 嘉治 真彦
2. 研修施設 : 佐々総合病院

3. 研修の基本

研修施設での研修 1カ月

4. 一般目標

(産科)

経験すべき診察法、検査、手技

- ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ・腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる
- ・一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・血算、白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・血液型判定、交差適合試験を自ら実施、結果を解釈できる
- ・心電図（12誘導）負荷心電図を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）
- ・細菌学的検査、薬剤感受性検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる、検体の採取（痰・尿・血液など）、簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- ・超音波検査を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる

経験すべき症状、病態、疾患

- ・流、早産および満期産について初期治療に参加できる
- ・妊娠分娩（正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥）を診察し、治療に参加できる

(婦人科)

経験すべき診察法、検査、手技

- ・全身の観察（バイタルサインと精神状態の把握、皮膚や表在リンパ節の診察を含む）ができ、記載できる
- ・腹部の診察（直腸診を含む）ができ、記載できる

- 一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 血算、白血球分画の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 血液型判定、交差適合試験を自ら実施、結果を解釈できる
- 心電図（12誘導）負荷心電図を自ら実施し、結果を解釈できる
- 動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- 血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる、簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む）
- 細菌学的検査、薬剤感受性検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる、検体の採取（痰・尿・血液など）、簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 肺機能検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- 超音波検査を自ら実施し、結果を解釈できる
- 単純X線検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- X線CT検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- MRI検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる

小児科 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

- 小児の成長、発達を理解し、小児疾患の十分な対応と処置ができるようになること
- 小児でよく見られる救急の対処はできるようになること
- 小児疾患の診断・治療に必要な基本的な検査・処置ができるようになること
- 小児の入院が必要な急性疾患、慢性疾患について指導医と一緒に主治医として治療できること

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 松永 保
2. 研修施設 : 戸田中央総合病院

3. 研修の基本

- 研修施設での研修 1 カ月
- 救急患者の初期評価、初期治療を行う

4. 一般目標

- 小児疾患の診断、治療に必要な検査、処置を修得すること
- 小児の診療、所見の記載が出来る様になることを目標とする
- 小児救急の対処が出来る様になることを目標とする
- 小児の成長と発達を理解し、子育てのアドバイスやヒントを保護者に与え、育児相談にのれるようになることを目標とする

5. 行動目標

経験すべき診察法・検査・手技

- ・小児の診察(生理的所見と病的所見の鑑別を含む)ができ、記載できる
- ・一般尿検査(尿沈渣顕微鏡検査を含む)の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・簡易検査(血糖、電解質、尿素窒素など)
- ・動脈血ガス分析を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・血液免疫血清学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる(免疫細胞検査、アレルギー検査を含む神経学的診察ができ、記載できる)
- ・細菌学的検査・薬剤感受性検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる・検体の採取(痰、尿、血液など)・簡単な細菌学的検査(グラム染色など)
- ・液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・超音波検査を自ら実施し、結果を解釈できる
- ・単純X線、CT、MRI 検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・神経生理学的検査(脳波、筋電図など)の適応が判断でき、結果の解釈ができる
- ・注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)、採血法(静脈血、動脈血)、穿刺法(腰椎)、導尿法を実施できる

経験すべき症状・病態・疾患

- ・リンパ節腫脹、発疹、黄疸、発熱、頭痛、けいれん発作、呼吸困難、咳・痰、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常(下痢、便秘)、関節痛、血尿を診察し治療に参加できる

- ・精神科領域の救急、脳炎・髄膜炎を診察し、治療に参加できる
- ・湿疹・皮膚炎群(接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎)皮膚感染症を診察し、治療に参加できる
- ・呼吸器感染症・閉塞性肺疾患(気管支喘息)を診察し、治療に参加できる
- ・肝疾患、原発性糸球体疾患(急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群)・泌尿器科的腎
尿路疾患(尿路感染症)を診察し治療に参加できる
- ・ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)・細菌感染症
(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)を診察し、治療に参加できる
- ・全身性エリテマトーデス・慢性関節リウマチを診察し、治療に参加できる
- ・先天性心疾患を診察し、治療に参加できる

地域医療/在宅 臨床研修プログラム

1. 研修プログラムの目標と特徴

医療の全体構造におけるプライマリケアや地域医療の位置付けと機能を理解し、病診連携も実践する
地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、地域保健の役割について理解し、実践する。自分の健康は自分で守ることが基本理念となってきた今日において、『病気になる努力＝一時予防と早期発見』によって『健康への被害を最小限に留めること＝二次予防』であることから、予防医学が広く実践されてこそ本当に健康的な生活が出来ることを理解し、出会う人々に対して正しい啓蒙活動をするべく、相手の必要に応じて正しい説明、指導をすることを学習する
また、個々の病気の診断、治療について学ぶとともに一人一人の人間をより良い健康状態に導く総合的な診かたも身につけることを目的とする

2. 指導責任者と研修施設

1. 専門分野別指導責任者 : 町田 譲
2. 研修施設 : まちだ訪問クリニック

3. 研修の基本

研修施設での研修 1カ月

在宅人工呼吸器、在宅酸素療法、胃瘻からの経管栄養、中心静脈栄養、褥瘡の処置等、既に研修した技術を居宅という場でいかに実践するか経験する

また、患者の自宅という場でのマナーについて身につける。介護保険の医師の意見書の記載法についても学ぶなど、入院中より在宅に向けて準備する事項について指導する

4. 一般目標

在宅での医学的管理、治療技術について習熟する

患者、家族に対し全人的対応や配慮が出来る

在宅での看取りを経験する

介護保険制度を理解し、医師としての努めをはたす